# 会報 安曇野教育

**第66号**

発行所　安曇野市教育会　　発行日　令和２年３月２日
発行人　坂　槙　邦　章　　題　字　川　田　　殖
編　集　会報委員会


## 「教育会は不要？」

**会長　坂槙邦章**

「教育会に入っても何もいいことがなさそうなので」「自分には教育会は必要ないので」と言って教育会に入会されない方がいらっしゃいます。

教育会へ入会するか否かは、先生方の意思により自由に決められるものですが、そもそも教育会というのは、先生方の主体的な研修や研究を支援するために、会員となった先生方が相互に協力し合い、助け合いながら、資質向上を目指すための同志の団体です。ですから、そこに参加しなければ、良いも悪いも、必要感も生まれないのです。良し悪しや必要かどうかも先生方次第ということです。さらに、入会したからといっても、ただそれだけでは当然何も得られないし、何も変わりません。逆に、自ら求めようとする気持ちがあれば、その可能性は無限大です。無限大というのは言い過ぎかもしれませんが、自分の得たかった以上のものが得られるという可能性があることは間違えありません。教育会への参加という、与えられた権利やチャンスを、どう捉え、どう活かすかはまさに先生方次第ということになります。

このように偉そうに言っている自分も、かつては『動員』という形で様々な教育会の事業や大会、研修会、研究会に仕方なく参加し、その度に、正直、気持は重いものでした。しかし、いざ参加してみると、思いもかけない収穫が得られることが多く、とりあえず行って良かったと思えることが多かったのです。そして、最近では、たとえ動員であろうとも、参加することが苦ではなく、むしろ、今回はどんな収穫があるのかと楽しみを感じるようにさえなってきました。収穫というのは、その大会や研修会、研究会の直接の中身に関わるものに限らず、人との出会いであったり、訪ねた土地やその土地の風土や産物であったりと様々です。何かひとつでも得るものがあれば、気持ちも軽く、満足感も高まります。

このような機会を提供してくれるのが『教育会』という同志の先生方の集まりなのです。

与えられた権利、チャンスを前向きに受け止め、まずは入会し、参加してみて、何かひとつで良いので求めてみて、そして、良かったと思えるものを自ら感じとってもらえたら…、と切に思います。

## 教育会この一年を振り返って

庶務担当幹事　奥原　竜司（豊科北中）

今年度も会員の皆様のご協力のおかげで、教育会の諸事業を着実に進めることができました。

五月に総集会を実施し、講演会では『日本人は歴史から何を学ぶべきか』という演題で、静岡大学名誉教授小和田哲男先生に講演していただきました。著名な先生の講演であったため、会員以外の来場者も多く、参加された皆様からは、「日本史を見つめ直す新しい視点を教えていただいて楽しかった」等の感想をいただきました。また、会員研究発表として、郷土文化財センター運営委員会の豊科北小学校藤松慎一郎先生・穂高西中学校山科亮太先生から「郷土文化財センターの歩み」について発表していただきました。参加された皆様から「これまで知らなかったことを学ぶ機会となった。会員の研究発表こそ教育会の趣旨に一致するので、これからも大切にしていきたい」等の感想が寄せられました。今後も会員の職能向上を図るとともに、公益法人として多くの皆様に貢献し得る総集会をめざしたいと思います。

各種委員会・同好会・実技講習会等の諸事業も、多くの会員の皆様のご協力で充実した内容とすることができました。また、「安曇野の先人等に学ぶ会」「安曇野巡検」にも多くの皆様に参加していただきました。さらに、「安曇野の子どもを語る会」では「地域・学校・家庭で守る子どもの安心安全」というテーマで、三者がそれぞれの活動や思いを伝え合い、充実した話し合いとなり、子どもたちの安心安全のために、確かな一歩を踏み出すことができました。その様子と成果を会報にまとめ、参加者・会員・市内小中学校全保護者に配布し、教育会の活動を広く知っていただく機会ともなりました。

十一月に実施した「次年度事業に向けた調査」では、八五％以上の会員から「おおむね現状でよい」との回答が得られました。一方で、いくつかの課題もご指摘いただきました。ご意見を参考に改善の方向を検討し、会員の皆様が主体的に参加し、共に学び合える安曇野市教育会を目指していきたいと思います。一年間の会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 第二回事業推進連絡会報告

一月十七日、各学校の代議員が集まり、第二回事業推進連絡会が南安曇教育文化会館にて開かれました。

最初に各事業の反省が報告されました。実技講習会の反省では、講座ごとに工夫した内容で研修を行い、大勢の先生方が参加し、大変充実した研修になったことを確認しました。

親子陶芸教室については人気があり、募集開始日の午後に定員を超えたこと、来年度も常任委員会で開催予定日を設定し、早めに予約を入れる必要があることが報告されました。

安曇野の子どもを語る会の内容については、子どもの安心安全を継続的に扱っていくこと、中学校の部活動の大会と重なるが、来年度も同時期に行う予定であることが報告されました。

教育会事業に向けてのアンケート結果については、会報と会誌が両方あるので、内容を精査していくこと、実技講習会の半日開催の検討、研修日は引き続き一日で行うこと、活動の充実が図れない委員会は見直していく必要があることなどが報告されました。

## 同好会からの報告

**【国語同好会】**

豊科南中学校の三尾浩幸校長先生を会長、中川由香里教頭先生を副会長として、会員十七名で活動してきました。

十一月の研修会では、小学校の先生は、自作教材や学習カードなどを持ち寄り、日常の実践を紹介し合いました。中学校の先生は、定期テストを持ち寄り、情報交換しました。国語を専門とする仲間との交流を深め、各自の実践力を高めるよい学びの場となりました。

また、長野県国語教育学会夏期研修会（上田市）にも同好会員が参加しました。

来年度は、長野県国語教育研究協議会（安曇野大会）が開催されます。会員みんなで楽しく研鑽に励む一年間にしていきたいです。

（明南小）

**【社会科同好会】**

豊科東小学校の志村昌之校長先生に会長をお願いして、会員二十九名で活動してきました。

本年度は、七月に穂高東中学校で「中国・四国地方」について、また、十月に穂高北小学校で「日本の漁業」について授業を提供していただきました。どちらの授業にも多くの先生方に参加していただき、立場を越えて積極的に意見を交わしながら授業力向上につなげることができました。

また、学習会では安曇野市豊科郷土博物館館長、原明芳先生から、上原良司から今に伝わる自由主義についてご講演いただきました。地域教材として、今後各校で教材化していけたらと思います。

来年度も引き続き多くの先生方に積極的な参加をうながすと共に、再来年度の信州社研安曇野大会に向け研鑽を深めていきます。

（穂高東中）

**【算数・数学同好会】**

豊科北中学校の濱野久校長先生に会長を、堀金小学校の坂槙邦章校長先生に副会長をお願いして、会員二十二名で活動しました。

二年後に行われる中信ブロック大会へ向けて、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりを深めてきました。

今年度より授業づくり勉強会を二ヶ月に一度、休日に行い、実践事例から学び合っています。また、来年度使用する算数教科書の説明会を行い、教科書の有効な使い方を提案することができました。

まとめの会では、信州大学の茅野公穂先生を講師に講演会を行い、新学習指導要領で求められる力を育成するための授業構想を学びました。

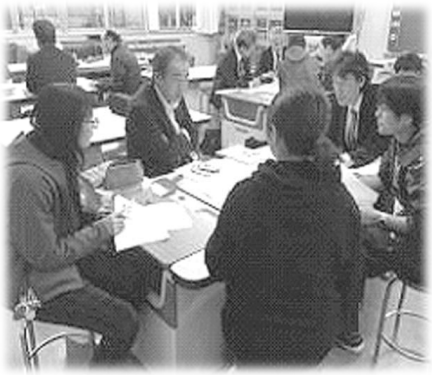
（穂高東中）

**【理科同好会】**

豊科南小学校の丸山広樹校長先生を会長とし、会員三十三名で活動しました。

「自分の課題を主体的に追究し、表現する子どもの姿をめざして」を研究テーマとした六月の穂高南小学校公開授業では、石けんの膜をフラスコの口につけて、温めたり冷やしたりしたときの石けんの膜の動きを観察する活動を通して、学習課題「空気を温めたり冷やしたりすると、空気の体積はどうなるのだろうか」に取り組みました。

九月の天体観望会では、上弦の月や木星、土星の観望をしました。



研修日には「信州理研安曇野大会に向けた授業・組織づくり」として、授業単元を絞り込んだり、大会運営の組織について検討したりしました。

（豊科南中）

**【音楽同好会】**

三郷中学校の内川雅信校長先生に会長をお願いし、三十四名で活動してきました。教育会総集会の合唱発表では、本年度も会員同士の心をつなぐ貴重な機会をいただきました。また年二回のこども病院コンサートでは、市内の先生方や様々な状況にいるお子さん達、周りで支える皆さんと音楽を通してつながることができました。研修会では、内川雅信先生より「授業・部活・学級指導に生かせる合唱指導」というテーマで、教科の本質に触れたこれからの自分に生かしたいお話を沢山伺うことができました。まとめの会の折には、同好会コンサートを行います。私達自身も音楽を楽しみ、つながり合いながら、研修を深めていきたいです。

（穂高南小）

**【図工・美術同好会】**

図工・美術同好会と改称して、小学校の先生方にも多く参加していただこうと思いましたが、一名

増の十一名で発足しました。

今年は会長を穂高北小学校の土松丞司先生にお願いし、十月に「県児童生徒美術展」「今を生きるこどもの絵展」の審査を行い、一月に豊科近代美術館にて巡回展の作品も含めた入選作品の展示を行いました。十月の審査会では、小中学校合同で各校の児童・生徒の作品を審査し合い、研鑽の場としました。なお、本年度は北安曇で行われた長野県美術教育大会に協力しました。

（穂高西中）

**【体育同好会】**

体育同好会は、穂高南小学校の三溝裕子校長先生を会長に、会員数三十一名で活動してきました。

本年度は、昨年度の県体研安曇野大会の成果を活かした日々の授業改善を重点に、研究を深めました。毎回の研究会に多くの仲間が参加し、公開授業案づくりや情報交換を行いました。

豊科南小学校の小森先生に「お助けラグビー」の授業を公開していただき、信州大学の岩田教授から満点をいただきました。教材化や教師の教授行為について、同好会員で高め合ってきた成果が出た公開授業となりました。これからも日々の授業改善をめざし、活動を広めていきたいです。

（穂高西中）

**【技術・家庭科同好会】**

本同好会は明南小学校長の早川正美先生を会長に、会員数二十一名で活動してきました。今年度は、来年度の長野県技術家庭科教育研究大会に向けて、授業研究や教材開発を行いました。「片付けよう身の回りの物」という、より気持ちよく生活するための工夫を考える、穂高北小学校の先進的な授業づくりに協力することができました。

来年度は技術、家庭に分かれて新たな楽しい研修を考えていきます。ものづくりの好きな先生方は、担当教科に関係なく、是非お気軽に本同好会にご入会いただき、一緒に学びましょう。

（穂高東中）

**【道徳同好会】**

穂高西小学校の窪田尚幸校長先生を会長に、会員八名で活動してきました。

研修日の研修では、道徳授業での困りごとを出し合い、明治図書から出ている月刊誌「道徳教育」の中から、困りごとの解決となる部分を抜き取り読み合ったり、意見交換をしたりしました。

ノートやワークシートに意見を書かない児童や生徒がいる場合はどうするか、意見が方法論に終始してしまう場合にはどうするか等の困り事が出ました。周りの人たちも似たような困り事を持っているという安心感を持つことができたと同時に、今まであった不安感を取り除くことができる充実した時間になりました。

（三郷中）

**【哲学同好会】**

哲学同好会は、堀金小学校の坂槙邦章先生を会長に、会員数四十六名で活動を行いました。六月の「安曇野の先人等に学ぶ会」では木村素衛先生の日記の読み合わせ七月の「哲学研修講座」では、『表現愛』の読み合わせを行いました。

「哲学研修講座」では、今年度三年目となる奈良女子大学文学部の西村拓生先生を講師にお招きし『表現愛』を読み深めることができました。木村先生の思想の根本にある人間観を元に、表現を導く「イデア」や美しいものを求める「エロス」、そして、善や美を求める人間の努力を支える絶対的な愛である「アガペ」についてじっくりと考えていくことができました。難しい言葉や記述が多く、自分で解読をするには苦しむ内容ですが、西村先生による丁寧な解説をお聞きしたり、グループ討議を充実させたりしていく中で理解を深めることができ、教育につながる点を多く発見することができました。今後の教育実践にも生かしていけそうな希望が持てました。

（明科中）

**【教育相談同好会】**

堀金中学校の西川友人校長先生を会長に、会員十七名で活動を行ってきました。同好会発足時には、情報交換やミニ研修を行い、夏休みには、特別支援教育コーディネーター会などとの合同研修会をおこないました。

研修日には、京都大学の市川千秋教授や茨城医療大の福井龍太先生、ウィスコンシン州の自閉症コーディネーターの池田実先生への取材から「行動教育とABA」「不登校対応」「自閉症の指導」について学ぶとともに、畿央大学大久保賢一先生、和歌山大学米澤好文先生の著書を紹介しました。活発な情報交換がなされ、同好会員以外の先生方も多数参加し大盛況に終わることができました。

（豊科東小）

## 東西南北

### 「アブラコウモリ」

初夏から秋にかけて安曇野の田んぼ道を歩いていると、田んぼの上をコウモリが飛んでいるのを見かけます。

この身近にいるコウモリは「アブラコウモリ」という種類で家の屋根裏や戸袋、下水管の中などをねぐらとしています。このコウモリが校舎に住み着いて糞の処理に苦慮することもよくあります。

コウモリと聞くと、吸血コウモリを思い浮かべてしまうかもしれませんが、それは誤解です。全世界にコウモリは約千種類いるそうですが、実際に血を吸う（なめる）コウモリは、中南米に棲む三種類だけで日本には吸血コウモリはいないそうです。（「コウモリの不思議な世界」前田喜四雄著より）「アブラコウモリ」は蚊や蛾などの虫を主に食べていて、害獣ではなく益獣と言えます。糞をすりつぶしてみると、蚊や蛾をすりつぶして乾燥したようなパラパラした粉になります。

コウモリは初夏に出産します。秋口には、力強く飛ぶ大きな親コウモリとフラフラしながら一生懸命飛んでいる（ように見える）子どものコウモリが見られます。今年も無事に出産したんだなあと微笑ましく眺めています。

（穂高西中学校　　）

## 【人物誌同好会】

穂高東中学校の中村真市校長先生を会長として八名で発足し、活動してきました。

本年度の活動も井口喜源治先生に関わる学びを行いました。一般の方とともに井口先生の筆記した内村鑑三講演会参加記の読み合わせや、平本紀久雄先生や武富保先生の講演会によって、内村鑑三と井口先生との関係を学ばせていただきました。また、研修日には井口喜源治記念館の館長の松尾恒史先生から、塾の教育精神や記念館所蔵の価値ある資料についてのお話をうかがいました。「良き人になれ」という井口先生の教えは、普遍的な教育理念であり、今も実践に値するものであることを再認識しました。

（豊科北中）

## 【英語同好会】

三郷小学校の曽根原弘校長先生を会長に二十二名の会員で活動を行いました。今年度行った研修日では、「教材や学習資料の共有を考える」として、曽根原校長先生にご協力いただきながら、協議を重ねることができました。

また、普段の悩みや困っていることなどを共有し、他の小中学校での取り組みを話し合い、教科としての外国語について情報交換をしました。来年度にはさらに会員数が増えてたくさんの方との情報交換ができればもっと英語教育の充実が図れると期待しています。

（穂高西中）

## 【情報教育同好会】

穂高西中学校の宮澤浩校長先生を会長として、今年度は九名で活動してきました。

各校、パソコンの入れ替えが進み、生徒用パソコンは今までのノートパソコンからタブレットに入れ変わりました。それに合わせ、十一月の研修日ではタブレットを授業で活用するために、SKY株式会社様の「SKY MENU CLASS」の利用方法を体験・学習しました。

パソコンと違い、ワイヤレスで写真を撮って共有したり、動画を時間差再生したりと、パソコン室を飛び出して活用できる方法を学び合うことができました。

来年度も多くの先生方が学び、活用して欲しいです。

（豊科北中）

## 【学校保健同好会】

豊科北小学校の飯嶋正成校長先生を会長に、二十名で活動してきました。十一月の研修日では、講師の方をお招きして、学校保健管理ソフトの講習会を開催しました。日々の保健管理や執務、健康診断、保健統計に活かせる内容を中心に実際にパソコンを操作しながら講習を行いました。参加者からは、「知らない機能が沢山あり、仕事が効率よく進みそう」「統計の入力の方法も分かった」「来年度も継続してほしい」等の感想が寄せられました。

今後も日常執務に活かせる研修や、参加者同士で情報交換が出来る場を設けていきたいと思います。

（三郷小）

## 【特別支援教育同好会】

明北小学校の長瀬克彦校長先生を会長に、十八名で発足しました。

今年度は、中部給食センターで毎日私たちにおいしい給食を作ってくださっている栄養士、調理師の皆さんを講師に迎え「さつまいものおやつづくり」をテーマに実施しました。サツマイモを使った簡単でおいしいレシピを教えていただきました。サツマイモを切ったり茹でたりなど、子どもたちになったつもりで調理しました。

「さつまいものみたらし団子」など簡単でおいしく、生活単元学習で子どもたちと一緒に楽しく作ることができそうだと思いました。

来年度も誰もが知りたいと思う内容の研修にしていきたいです。

（豊科南中）

## 【生活・総合研究会】

本年度は明科中学校の小林俊子先生を会長に、十名の会員で活動してきました。

春に先生方のこれからの活動の見通しをお話いただきながら、今後の活動をどうしていったら良いか、みんなで知恵を絞って考え合うことができました。また、メーリングリストを作って連絡相談ができるようにしました。

十一月に行われた研修では、「子どもは本来自ら学ぶ力をもっている存在である」という子ども観で他の教科の実践を考えた時、どういう授業が考えられるのか、また自由進度学習や、堀川小・奈良女プラン、イエナプランなどの学習について考え合う機会としました。

（堀金小）

## 編集後記

本年度最終号の会報をお届けします。お忙しい中多くの先生方に原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。来年度も、会員同士の活動の様子を共有できる紙面作りを行いたいと思います。

## 郷土の文化財46

### 宮坂　勝　作「裸婦素描」（デッサン）

松本市美術館でも企画展が行われた宮坂勝（一八九五～一九五三）は南安曇郡梓川村倭の酒造業の次男として生まれました。現東京藝術大卒業後、フランスに渡り修行。帰国後は松本中学校美術教師として教壇に立ちながらも、中信美術会の初代会長として、多くの人材を育て上げました。

小さいデッサンながら、彼を知る人は、「なぜここに宮坂勝の絵があるの？」とびっくりする、それほどの画家であるそうです。

本年度はこれが最終の紹介です。ぜひ本物を見に来てください。

（郷土文化財センター運営委員会）